

# 福祉サービス第三者評価結果

## ①第三者評価機関名

名 称	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
調査実施日	平成28年12月1日、2日

## ②事業者情報

名 称	未来	種 別	障害児入所施設
代表者氏名	理事長 小谷 敏弘	定 員	60名
所 在 地	徳島市国府町中369番地の1		

## ③総評

### ◇特に評価の高い点

<p><b>利用者の生活のしやすさに配慮した住環境の整備</b></p> <p>施設では、家族交流・地域交流の場、また災害時における地域の障がい者の避難空間として多目的室を整備している。各居室は、施設設備基準の約2倍を確保しており、全居室数の半数を個室化するなどの配慮が見受けられる。また、3棟のうち1棟は県産材を活用した木造平屋建てとし、重度障がい児に配慮した専用の庭や遊具の整備、採光のための中庭の設置、施設行事等の交流を図ることのできるスペースを確保するなど、利用者一人ひとりの生活のしやすさに配慮した住環境を整備していることは評価できる。</p>
<p><b>組織的な情報共有化の仕組み</b></p> <p>施設では、Webを介した独自のITシステムとイントラネットなどを活用するなどして、各部門間で相互のやりとりを行うことができるようになっている。朝礼や棟会議、棟責任者会議等の機会が情報共有の機会となっているが、当該システムを活用することで随時の情報流通も可能となっており、支援内容の検証と業務の効率化や改善等に繋がっている。さらに、システムの活用のみならず紙媒体の回覧等も活用しており、情報共有を組織的に進める仕組みを徹底していることは評価できる。</p>
<p><b>利用者の安心・安全の確保を目的としたリスクマネジメント体制の整備</b></p> <p>ヒヤリハット報告書や事故報告制度を活用し、利用者の安心・安全の確保を目的としたリスクマネジメント体制を整備している。収集した事例に基づき、棟責任者会議や保健栄養管理委員会を開催し、要因分析や改善策の検討、再発防止等の対応について検討している。また、看護師を配置し、日頃の健康管理に留意している。施設内暴力や誤飲、誤薬等の防止も徹底している。利用者一人ひとりの特徴に応じて、棟ごとに入浴や排泄等に関するマニュアルを整備している。</p>
<p><b>利用者や保護者、学校、関係機関等との連携による本人の自立に向けた個別支援計画の策定と支援</b></p> <p>利用者一人ひとりの個別支援計画の策定において、利用者のニーズや希望を反映した内容や支援方法、対応を検討しており、策定に向けた一連のプロセスを適切に実施している。計画の策定等は、利用者や保護者、学校、関係機関との話し合いを重ねて作成しており、支援においても統一した考え方で実施するようにしている。</p>
<p><b>利用者一人ひとりの生活の豊かさを高めるための支援</b></p> <p>棟ごとに利用者の参加希望を聞き、職員とともに、花壇の作成から種蒔き、花植えや水やりなどを行っている。また、親子日帰り旅行など、家族とともに過ごす時間を持つことができるよう支援している。利用者の嗜好調査に基づき、おやつには、各棟の利用者や栄養士等の職員で作ることもある。このように、利用者の希望に応じ、四季折々の生活を家族も含めて楽しく過ごすことができるよう、各棟や個別の状況に配慮した取り組みを行っていることは評価できる。</p>

#### ◇改善を求められる点

##### 施設独自の中・長期計画の策定や、人材育成に係る目標管理制度の導入

施設の理念や基本方針を具体化するためには、中・長期計画を反映した年次事業計画の策定が欠かせない。経営・運営課題を解決するための取り組み目標を明確に定め、この目標を達成するために、実施する福祉サービスの内容や組織体制、設備・備品の整備、職員体制、人材育成等の現状分析を行い、明らかになった課題・問題点を解決していくための具体的な中・長期計画等の策定が望まれる。さらに、中・長期計画で掲げる方針や目標の達成に向けては、職員一人ひとりの育成に係る目標管理制度の仕組みの導入が望まれる。施設の求める社会規範に優れた倫理観の高い人材、知識や技能・専門性を有する職員を育成するためにも、中・長期の人材確保・育成の観点を含めた計画とされたい。

##### 社会福祉法人に求められる地域公益活動の実践

施設の行事の際に相談コーナーを設けたり、地域の清掃活動に参画したりしているが、近年は積極的な取り組みに着手しているとはいえないことから、今後は、法人内事業所や他サービス事業所、関係機関・団体等と連携して地域の福祉ニーズを把握したうえで、施設が有する専門的機能を積極的に還元するよう取り組まされたい。これら地域公益活動の実践にあたっては、把握した福祉ニーズに基づく具体的な事業や活動の中・長期計画や事業計画に反映し取り組まされたい。

##### 利用者の社会参加や自己実現の達成に向けた取り組み

日々の利用者の通学に施設長が同行し、その際に地域の住民や児童と挨拶を交わすなどしている。また、施設のレクリエーション大会では、利用者が喫茶交流スペースを担当したり、看護師や管理栄養士による、栄養講座を開催したりしているが、利用者一人ひとりが地域の一員として相互に交流するまでには至っていない。今後は、利用者が地域のなかで様々な経験を積み、一人ひとりが将来的な社会参加や自己実現を達成することができるよう、さらに一層の取り組まされたい。

##### 入浴や排泄、食事等の支援に係る標準的な実施方法の作成について

施設では、日課表を作成するなどして、日々の暮らし方を分かりやすくしているが、入浴や排泄、食事等の基本的な生活に関する様々な支援に必要な標準的な実施方法を定めるまでには至っていない。各棟で、利用者の状況に応じた支援を進めているため、今後は、それぞれに標準的な実施方法を作成するなどして、業務の標準化と将来的な人材育成に繋がられるよう期待する。

#### ④福祉サービス第三者評価結果に対する事業者のコメント

この度、第三者評価を受審し、福祉サービスの質の向上への取り組み等について、改めて現状を見直す良い機会であったと認識しています。今後は、受審結果を真摯に受けとめ、全職員が改善事項や課題を再認識の上共有し、速やかな改善事項への取り組みに着手し、質の高い利用者支援を目指して参ります。

#### ⑤評価細目の福祉サービス第三者評価結果(別添)